



認定特定非営利活動法人

青少年の自立を支える会 通信

冬

平成28年

2016年1月

会報 第63号

## 目次

巻頭「これからの活動の進め方」

第6回子ども虐待をなくそう！県民のつどい報告

事務局報告 第18回星の家まつり、第18回チャリ  
ティーコンサート

寄付・会費納入者

編集後記



月の家の開所当初からアルバイトでかかわってくれた大学生が卒業を迎えます。大きな戦力だったのに・・・ 月の家では子どもと遊んでくれる大学生など若い人を求めています。

## これからの活動の進め方について

理事 鈴木 友之

明けまして おめでとうございます。会員の皆様におかれましては、穏やかな初春をお過ごしになられたことと存じます。私は、昨年3月に児童相談所を定年退職し、今年度から「青少年の自立を支える会」の理事に選任されました。力不足ではありますが、よろしくお願い致します。

現在、私は、「とちぎユースアフターケア事業協同組合」で、社会的養護出身者のアフターケアや入所児童のリービングケアに関わっています。協同組合は、篤志家からの寄付金を原資に、県からの補助金や施設等からの出資金に賛助会費を加えた予算で、社会的養護出身者の生活や就労等に関する相談、生活資金や就労・住宅資金の貸付、入所児童が退所後の生活を円滑に営むことができるための研修会の開催等の事業を行っています。これらの事業は、児童養護施設・県里連・児童自立支援施設・自立援助ホーム等の実務担当者が、月1回の会議を開いて検討し、事業を実施しています。協同組合は、千葉県協同組合をモデルにしていますが、社会的養護に係る全施設等が加入し、連携をとってアフターケアを進めている組織は、全国的にも稀な存

在です。

平成9年、「青少年の自立を支える会」が発足し、全国で十数番目の自立援助ホームとして「星の家」が開所して20年近く経過しました。この間、自立援助ホームが法制化される等社会的養護についての法制度が前進し、支援の幅が広くなり、子ども達にとって大きなプラスが生まれています。しかし、近年、社会的養護の経験がなくて、自立援助ホームに入所する子ども達が非常に増えています。これらの子ども達は、児童相談所でケースにもなっていない高校生や中退者で、新規に相談に訪れるという子ども達です。また、「月の家」に通う児童のように、居場所を用意して支援することで、施設入所に至らない児童も増加しています。児童の貧困化が進み、支援の対象者が浅く広く増加している現状になっていると思料されます。これからの支える会の活動を進めるにあたって、支援の対象や支援方法の吟味が必要になってくると思います。社会的養護を進めていくのか、地域支援に向かっていくのか、あるいは、全てをカバーしていくのか、今後、会員の皆様と議論を重ねら

れたらと思っています。

11月15日(日)、第6回子ども虐待をなくそう！県民のつどい(主催：子ども虐待防止ネットワーク)がパルティ(とちぎ男女共同参画センター)で開催されました。

増加の一途の児童虐待。今回の県民のつどいでは「子どもの貧困、虐待の連鎖を断つ—子どもの居場所づくり事業のこれから—」をテーマに、実際にこの事業を実施している県内4団体からの報告を中心に、虐待防止のために地域の中でどんな支援が有効なのか、議論を深めました。

#### 《基調講演》

講師 福田雅章(主催者代表/青少年の自立を支える会事務局長/養徳園総合施設長)



#### 講演要旨

児童家庭福祉の目指すものが大きく変わってきている。戦後から長いこと、衣食住と教育の保障に主眼が置かれてきたが、今は子どもの自己実現、自立になってきている。そうでないと貧困や虐待の連鎖が断てないからだ。親の因果が子に報いることがないようにしていかなければならない。生まれ育った環境によって子どもの将来が左右されてしまえば、また貧困、虐待の連鎖が起こってしまう。そうならないためにも18歳までの支援ではなく、その後も切れ間なく支え自立までのプロセスを見守っていくことが必要である。

児童虐待の増加により児童養護施設が満杯状

態で、危機的な状況にある子どもから保護される。すでに家族関係の再構築が困難になっており、家庭復帰困難により入所の長期化で、さらに満杯状態が深刻化するという悪循環にある。しかし、地域の子育て支援を充実することで発生予防、早期発見・対応が出来れば親子分離を少なくすることができ、施設の受け入れ状況にも余裕が出てくる。そうなれば虐待が軽度うちに親子分離を含めて適切な対応ができるようになり、親子の再統合を進めたり、虐待の重度化を予防したりすることも可能となる。

どうしても家庭の中だけでの子育てには限界がある。親戚や地域と同じような関わりが出来る機能を持つ子どもの居場所が、各地に必要となっている。そこでは、子どもがちゃんとした大人と関わることができ、それは親子関係よりも質の高い関係を経験することが出来るのが大切である。親になって子育てをする立場になっても、そうした経験があれば子育ての孤立を予防でき、ひいては虐待の予防となろう。

#### 《シンポジウム》

コーディネーター 福田雅章

パネラー

畠山由美(日光市の Your place ひだまり)

林谷政子(宇都宮市の月の家)

仲村久代(小山市のシリウス)

森田野百合(那須塩原市の虹の家)

#### 畠山さんの発言要旨

学校等から「衣食住が十分に確保されていない、不登校ぎみ」などの報告があり、何度も家庭訪問したりして親に指導をするものの改善されないことが多い。子どもの環境を変えたいが、親も子の離れて暮らすことは望んではいない。

そうした子どもに普通の暮らしを提供したいという思いからこの事業を始め、「Your place ひだまり」の開所に至った。親の機能は多少なりとも残っているのなら、足りない部分を支援すればいい。

成果としては、子どもが親との暮らしを維持しつつ地域の中で暮らすことで心の安定が図られ、食生活も保障できるので体の発達を守られ、ひいては自尊感情が育つ。また、親との関わりも持てて、親の変化だったり生活環境の改善が見られたりするようになってきた。

行政との連携は課題だが、私たちはまずは相談事業から始めた。行政と連携しながら家庭支援のあり方を模索しながら、子どもの居場所に行き着いた。問題意識を共有することがまずは大切だ。



#### 林谷さんの発言要旨

養育者が居てもその養育環境がきちんと機能していない家庭が増えており、そのような環境で育った子どもが将来結婚をしても、普通の家庭を知らずに子育てをしてしまう。それが連鎖である。連鎖を断つためにネグレクト環境にある子どもの支援を行うことを目的として、「月の家」が開所されました。「月の家」では、勉強や遊び、夕食、入浴までを済ませ、家庭に送り届けるという取り組みを行っている。

開所から一年が経ち、子ども達も落ち着いてきました。最近では保護者と話ができたり、子育ての悩みを話してもらえるようになってきた

が、まだまだ保護者の顔が見えてこない。

今後の課題は、保護者との関わりをどのようにしたらよいかという点だ。子どもへの支援だけではなく、保護者への支援も同時進行で行っていかねばならない。また、「月の家」のような場所が宇都宮市に一つしかなく、送迎がとても大変なものも課題のひとつである。「隣のおばちゃん家」のようにもっと身近にあれば、地域で子どもを見ていけるのではないか。

#### 仲村さんの発言要旨

かねてから当団体に、地域住民や関係機関などから貧困家庭や子ども虐待の相談が持ち込まれていたため、要支援児童と認められた児童に放課後及び長期休暇中の居場所を提供することを目的に、シリウスは開所した。利用している子どもは、やはり衣食住が充分でない、日中・夜間を子ども一人で過ごしていることが多く、養育者は貧困(経済的貧困、関係性の貧困)や家事・養育が困難など様々な問題を抱えている。

開所から一年が経ち、子ども達にも変化が見られるようになった。挨拶や基本的な生活習慣が身に付いてきたり、助けてほしいことや要求を言えるようになってきたりしてきた。これは安全で安心な場所だからこそことで、他にも自己肯定感を味わえたり、多様な価値観に触れたりすることもできる。また、保護者とも徐々に話ができるようになり、困っていることや悩みごとを話してもらえるようにもなった。

今後の課題としては、おばあちゃん家に帰るように気軽に寄れて、宿題や遊びが出来る居場所を、子どもの生活圏の中にもっと増やしていくことが必要である。

#### 森田さんの発言要旨

「虹の家」も他の居場所と同じように、衣食住が十分に確保されていない、養育環境がきちんと機能していないなど様々な理由を抱えている家庭の子どもに、食事や入浴、学習支援などを行うことを目的として、開所に至った。

「虹の家」では、個別の学習支援を行っており、スタッフと子ども一対一で学習をしている。

高校への進学を諦めていた子も個別に学習支援を行うことで成績が上がり、やっぱり高校に行きたいと思うようになった。他にも遊びや食事の提供、入浴、衣類の洗濯など、家庭で当たり前に行われていることをしている。必要があれば保護者への養育相談にも応じている。また、子どもを家まで送り届ける際、連絡カードを保護者に渡している。連絡カードとは、今日の献立と出来事を書いたもので、保護者に子どもの様子を知ってもらい、カードが親子の会話のきっかけになればと思っている。

今後の課題としては、地域に一つしかないので送迎が大変なこと。やはりもっと子どもの生活圏の中に居場所があればと思う。

#### 《報告》

星 俊彦（厚労省・新たな子ども家庭福祉のあり方に関する専門委員会委員／青少年の自立を支える会理事長）

#### 要旨

子ども家庭福祉の新たなあるべき姿を示し、社会全体で共有し、そのあるべき姿に向かって動き出すことが、今求められている。

子どもや家庭を取り巻く環境が大きく変化している現在の状況を踏まえつつ、子どもの将来



が生まれ育った環境によって左右されることがないように、厳しい状況に置かれているひとり親家庭や多子家庭への支援の充実を図り、親を支援していく拠点を作る必要がある。親への支援はまだまだこれからであり、親支援ができる関係を親との間に作っていかなければならない。子どもとの関係ができてきて、それに伴って親との関係もできていくのである。

すべて子どもには、適切な養育を受け、健全に育つ権利があり、その自立が保障されなければならない。子どもと家族が抱えている問題に適切に対応できるかが重要である。そのためにも、市町村の役割と責任の分担を整備し、連携を図りながら子どもと家庭を支援していきたい。

## 事務局報告 その1

### 第18回星の家まつり 売上150万円越え



盛況だった星の家まつり（H27.10.11）ご協力くださった多くの方に感謝申し上げます。

第18回星の家まつり売上表 2015.10.11			
食器	127,580	焼きそば	62,000
日用品	256,901	5たしげん	24,300
衣類	128,681	野菜汁	25,500
折り紙	84,674	フカハル	14,160
食品	7,230	パン	60,000
木・CD	42,420	飲み物	29,000
おもちゃ	58,475	植樹袋	75,200
入学金	162,300	唐揚げ	32,200
特売品	43,175	ぎょうざ	36,000
人太郎	56,400	（おみ）	—
分裁	28,000	（おみ）	26,300
募金	11,292	ヒッサ	45,000
合計		1,553,348	



大塚皆美さん  
星の家スタッフとして最後のまつりでした。

## チャリティーコンサート、倉沢大樹さんが帰ってくる！



### 第18回チャリティーコンサート

日時 平成28年8月11日(木、山の日)  
場所 栃木県総合文化センターメインホール  
出演者 倉沢大樹、島田絵里 他

第15回(2012.3.20)以来、倉沢大樹さんのコンサートとなります。  
皆様のご来場を心よりお待ちしております。

### 寄付・会費納入者

平成27年6月1日から平成27年12月末まで  
敬称略・順位不同

#### ●正会費

青木孝之 阿久津マキ子 浅香 勉 浅香のり子  
浅川信明 朝野春美 阿部充子 天池悦子 天野  
幸子 荒井敏子 荒川泰行 安城興一 五十嵐紀  
久子 生野裕子 池谷正宏 石島浩子 石原栄子  
石原幹司郎 井田紫衣 糸井 克 伊藤 一 伊  
藤米子 岩本友子 宇賀神浩人 碓氷明子 江連  
京子 遠藤 忠 大金幸夫 大島 聡 大堀美知  
小川暢子 沖杉香織 荻原耕三 小村嘉子 小友  
茂 小野澤喜美 小山祐二 粕田晴之 加藤久美  
子 加藤祥圭 加藤雅子 金子好夫 川崎直美  
北村光弘 車田孝夫 毛塚義明 小坂博子 越井  
みどり 小林幸正 近藤峰明 斎藤幸子 齋藤洋  
子 笹沼榮子 佐藤 栄 眞田富美子 渋川典子  
下泉秀夫 白上桂子 鈴木恭子 鈴木啓市 鈴木  
友之 鈴木秀男 曾根美穂子 鷹栖律子 高橋昭  
彦 高原恵子 高山 實 竹内明子 田崎祥江  
伊達悦子 蓼沼初枝 田村範子 田村嘉應 多門  
孝 千野ヤイ 塚本明子 手塚美知子 寺崎恵美  
子 富居登美子 豊田省子 仲西美奈子 中村恵  
美子 中村和子 仲村久代 西山智彦 野澤辰郎  
野中芳久 橋本正行 塙 智江 原澤美穂子 桧  
山智子 桧山康子 廣田晃三 福澤英子 福田雅  
章 藤井幸子 藤平一恵 船田福哉 星 紀彦  
星 秀彦 本田紘海 前川隼子 益子 亨 増山  
民江 増山 均 増淵民子 松本甚一 森内律子

安 正幸 柳田 俊 矢野浩美 矢野正広 山口  
京子 山口恵子 山崎トヨ 山田昭利 山田美也  
子 山中節子 山村正治 横松 晃 渡辺ヨシ子  
●賛助会費

青木紀夫 青野浩子 新井重陽 池 節子 池田  
とし江 市川義章 伊藤孝子 上田昌弘 上田由  
美子 上野貞雄 上野統子 浦部延子 江田みど  
り 江原照雄 大島幸治 太田黒武久 大塚武昭  
大出昌広 大野育代 大野由子 大畑玲子 緒方  
幸枝 岡田敏江 岡 久子 岡本貞子 小川 守  
小野崎千鶴子 角海京子 影山義恒 片岡昌子  
加藤勝子 金澤伸子 金子澄子 金子 達 加納  
真理 上明戸晋史 上明戸智子 上岡和江 亀田  
文子 川辺佐知子 川辺 晋 北村長栄 木滑富  
美子 君嶋福芳 倉田克己 国分好子 小平幸二  
児玉恵里 狐塚良子 小林三千代 小堀栄美子  
小森映子 斎藤孝子 斎藤文子 齋藤昌枝 齋藤  
好江 齋藤義弘 坂本節子 坂本政子 坂本恭男  
桜井信正 佐藤明宏 佐藤文代 佐藤正行 佐藤  
善光 渋井洋子 菅又里美 須黒雪枝 鈴木俊男  
関谷好久 曾根洋子 高久礼子 高野省二 高野  
孝男 高橋とも子 高橋真知子 竹内美由紀 武  
田陽一 田鹿 馨 田代英夫 館野晴代 谷崎  
誠 谷 博之 塚越文夫 鶴田智子 鶴田 誠  
手塚郁夫 寺内晴美 東城 守 直井 茂 長久  
保ウタ子 中村右子 那須恵子 西岡 隆 根本  
智子 萩原寿夫 橋本寿美子 橋本伸子 橋本恵  
子 羽生実穂 浜崎豊子 早坂富士香 人見智子  
日野奈々子 平木 元 平橋文子 廣瀬 裕 福  
岡 昭 福田喜江子 福田静江 福田初美 福田  
仁美 福田泰子 藤岡浩美 藤田美代子 藤本

早 古澤栄子 北條昌子 増田容子 鱒淵澄子  
増淵雅子 増山 誠 松浦万里子 松島澄子 松  
本美佳子 村上信子 村山博之 村山雅子 森久  
美子 谷田部武男 山口静江 山口尚子 山崎順  
子 湯沢千恵子 湯澤典子 吉川泰夫 吉澤卓男  
吉田久枝 吉田依子 林谷和憲 林谷政子 和久  
井隆 鷲尾良司 渡辺厚子 渡部桂子

●団体

(有)在宅サポートこころ 弁護士法人のぞみ法律  
事務所 藤田勝春法律事務所

●寄付者

青木孝之 青木武次 阿久津美千代 浅香 勉  
浅香のり子 朝野春美 浅野道子 阿部充子  
新井重陽 荒井敏子 荒川泰行 有村秀人 安  
城興一 五十嵐紀久子 池 節子 池田とし江  
池谷正宏 石島浩子 石原栄子 井田紫衣 糸  
井 克 伊藤米子 稲見孝子 上田昌弘 上田  
由美子 碓氷明子 宇都宮更生保護女性会 江  
連京子 海老原清修 遠藤 忠 大越光世 大  
出昌広 大野育代 大畑玲子 岡田みち子 岡  
部昇子 小川八枝子 荻原耕三 奥村幸子 小  
材嘉子 小友 茂 小野澤昭吉 柿沼恵美子  
角海京子 影山五月 梶田みどり 粕田晴之  
加藤加代子 加藤久美子 加藤祥圭 加藤雅子  
加藤美恵子 加納真理 上明戸晋史 上明戸智  
子 川崎直美 川田俊彦 川辺 晋 木滑富美  
子 木村明子 車田孝夫 国分好子 小坂博子  
小平光志 小林三枝子 小林幸正 近藤峰明  
サークル風 斎藤幸子 斎藤孝子 齋藤洋子  
笹沼栄子 佐藤 泉 佐藤マサノ 佐野市更生  
保護女性会 塩澤幹雄 白石重雄 鈴木恭子  
鈴木貢四郎 鈴木俊男 鈴木友之 関彰商事株  
式会社 セキショウふれあい基金 曾根美穂子  
曾根洋子 高木 勇 高野省二 高橋昭彦 高  
原恵子 滝田 稔 伊達悦子 蓼沼初枝 館野  
晴代 田中喜一工房 田村陽子 田村嘉應 土

屋キミ 手塚美知子 寺内晴美 寺崎恵美子  
東京電力労働組合栃木総支部 とちぎVネット  
ワーク 栃木少年友の会 富居登美子 豊島優  
子 豊田悦孝 直井 茂 那珂川町小川更生保  
護女性会 長島真理子 中島幹雄 永田ひろ子  
永野弘子 中村郁子 中村光子 野中芳久 萩  
原寿夫 橋本美奈子 原澤美穂子 人見智子  
桧山康子 平野 敬 福泉水玲 福田静江 福  
田知美 福田雅章 富士ゼロックス栃木(株)  
富士ゼロックス栃木端数倶楽部 船田福哉 古  
頭岳夫 星 秀彦 鱒淵澄子 増淵民子 増淵  
雅子 増山律子 松本甚一 (有)三咲プロダ  
クシオン 三好洋子 村山雅子 森内律子 安  
正幸 柳田 俊 矢野正広 山口京子 山口恵  
子 山崎トヨ 山本 緑 湯沢千恵子 横松  
晃 吉沢道子 吉田依子 林谷政子 和久井隆  
渡辺やす 渡辺ヨシ子

なお、沢山の方から食品や日用品などの物品  
をいただいております。ご芳名は省略させてい  
ただきますが感謝しお礼申し上げます。

ありがとうございました！

ご不明な点がございましたら当会までお問い合わせく  
ださい。

【編集後記】

星の家、はなの家、月の家、そしてだいじ家、  
皆へとへとになっても目の前の子どものために  
がんばっています。人手がほしいです。

日々の取組をタイムリーに伝えるためにホー  
ムページのリニューアルを検討中です。もう  
しばらくお待ちください。

会費未納の方、会費を払ってくれると「支え  
てもらっているんだ」と元気が出ますからお手  
数でもよろしくお願いします。

【会費納入及びご寄付の郵便振替先について】

加入者名：青少年の自立を支える会 □座番号：00140-3-366972

\* 通信欄に会員種別・寄付金及びその金額をご記入ください。また、ご入会の方は“入会”とご記入ください。

会員種別と金額は、

正会員：5,000円、賛助A：5,000円/一口、賛助B：1,000円/一口、賛助団体20,000円/一口です。

\*\*\*振込などの手間が要らない「会費等の金融機関引落とし」のご利用をお勧めしております！\*\*\*

発行者/ 認定特定非営利活動法人 青少年の自立を支える会

所在地/320-0037 栃木県宇都宮市清住 1-3-48

発行日/ 2016年1月16日

電話/ 028-666-6023 FAX/ 028-666-6024

発行責任者/ 星 俊彦

Eメール/ sasaeru@snow.ucatv.ne.jp

編集責任者/ 福田雅章

HP/ <http://www2.ucatv.ne.jp/~sasaeru.snow/>

